



学校便り

長崎市立日見中学校

第13号

令和6年10月22日

文責 校長 山本

【修学旅行】

○ 1日目(10/16水)

13時に京都駅に到着し、班ごとにジャンボタクシーを利用して京都市内の研修に出かけました。天気予報では傘マークもあり心配でしたが、雨に会うこともなく充実した研修をすることができました。ちなみに職員チームは清水寺、建



【清水寺】



【建仁寺 風神雷神図屏風】

仁寺、二条城を見学しました。清水寺では、観光客が多く、人と人との間にできるわずかなすき間をねらって歩かないとなかなか前に進むことができず大変でした。

○ 2日目(10/17木)

朝から西本願寺を見学し、生徒が一番楽しみにしていたUSJへと向かいました。この日の天気は☀️、最高気温は28℃。にもかかわらず、生徒たちは1～2時間並んでアトラクションに乗ったり、お土産を選んだりとても楽しそうでした。



【USJ】

○ 3日目(10/18金)

2日目の夕方、神戸港から阪九フェリーに乗り込み、朝、新門司港に到着しました。そこから九州国立博物館と太宰府天満宮、大刀洗平和記念館を見学し、日見へと帰ってきました。太宰府の気温は30℃。3日間の中で一番暑かったような気がします。大刀洗平和記念館では、特攻隊に関する映像や朗読をもとに、改めて平和について考える機会となりました。



【太宰府】

修学旅行中は天気に恵まれ、とても充実した思い出に残る3日間になったことと思います。

宿泊を共にし、あちこち一緒に見学して回ったことで、一人一人のいつもと違う一面を見ることができたこと、また、時間を守って行動したり適切に振舞ったりする2年生の姿から、「やるなあ！2年生」とまとまりや頼もしさを感じました。これから日見中のリーダーとして学校を背負っていく2年生の今後の成長が楽しみです。存分に力を発揮してほしいと思います。

裏面に、少年主張大会の発表者である古川実紅さんの意見発表文を載せています。ご覧ください。

「思いやりを言葉にのせたキャッチボール」 3年 古川 実紅

「この〇〇っていうアカウントやばw」「何も言えなくなってる草」などのコメントをSNSで見たことがありますか。また、皆さんは炎上しているコメント・アカウントを見た時どうしますか。周りの人に便乗しますか。それとも見て見ぬふりをしますか。

2021年、私が12歳になったばかりの冬。誕生日に新しくスマホを買ってもらえることになり、まず最初に入れたのはSNSアプリ。初めて入れたアプリだったので、内心ワクワクしながらも、その反面、初めて入れたアプリだからこそうまく使えるのかという不安もありました。「あんまり使いすぎんようにね。」「分かっとるって。」「という会話を母として、アプリを開くとそこには驚きの光景が広がっていました。一見、普通の動画だったのですが、コメントを見ると「この人ってさ、本当に周りの人に配慮してなくて最悪。もっと考えてから投稿してほしい。」「というコメントが多数ありました。私は、そういう心ないコメントをする人もいるよなぁと思いながら見ていましたが、他の人たちの中には違う意見を持つ人もいたようで、「そう思うなら見るなよ」「なんかこのコメントを見たらさがったわ。こういう人がいるから…」という返信をする人たちとで言い合いになっていました。私はもめてるなぁと感じただけだったのですが、とあるひとことを見つけてしまったことで、私は言葉を失いました。「こういうコメントする人って死ねばいいのに」難しい漢字などは分からなくても、この言葉の意味はすぐに全て理解できました。絶対に人に言ってはならない言葉です。さらにこのコメントが来た瞬間から、皆の言い方はきつく、鋭いものになっていきました。「死ね」や相手を侮辱する言葉の数々。私は恐ろしくなり、その先にあるコメントを見る手を止めて、アプリを閉じました。もう私は最初と違い、楽しいなどのプラスの感情はなく、こんなことがあったらどうしよう、という不安の気持ちが強くなっていました。

そこから2年の月日が流れ、このことをすっかり忘れていた私は、ゲームに熱中していました。そのゲームには交換・プレゼント機能、さらにはDM機能がついていて、私はそのゲームに夢中でした。しかし、まだ私はこのゲームであんな体験をするとは思っていませんでした。いつも通りゲームをしていると、ある一通のDMが来ました。DMが来るという体験をなかなかしたことがなかったので、私はドキドキしながら来たメッセージを見ました。「あなたの投稿、私に似ていませんか。」私はトラブルにならないように丁寧に返信をしました。「すみません。真似をしたつもりはなかったのですが。不快にさせてしまったのならすみません。」私はその時、少し面倒くさいなと感じていました。すると相手の方から「あなたみたいな人がゲームをしているから、こういうゲームでトラブルが起きるんじゃないですか。本当に謝っているならゲームを辞めてください。」私は思わず「え？」と声に出してしまいました。こんなことでどうしてゲームを辞めなければならないのか、という思いが強く、あの時の私は少し感情的になっていました。「あなたが辞めればいいじゃないですか。そもそも私は何もしていないのに、私が辞める必要ありますか？」少し強い口調で言ってしまったことにもその時は気付かず、どんどん責めるような言い方になっていきました。後日、相手の方から、「少し感情的になりました、すみませんでした。」というDMが来たので、私も謝りました。ですが、今考えると、もっといい解決方法があったのではと思います。

私はまだ15歳ですが、色々な発言を見てきました。そのおかげで、今では感情が少し高ぶったとしても、相手の立場に立ってみるということをして、少し落ち着いてから発言をするようになりました。たった一言でも言葉というものは、意味や種類によっては人に治すことのできない傷を与えるものなのです。周りの人に便乗しただけでも、その行動は言われた側からすると発言した人と同じなのです。そのため、この言葉で人を傷つけるかもしれない、感情に身を任せず本当にこの発言をしていいのか、を考えることが大切です。自分で経験をしたからこそ、私はしっかりと言葉の使い方と向き合えました。言葉の使い方について、校長先生が集会の時に、「言葉」の「葉」という漢字を「刃」という漢字に変えて、「言刃」を使っていないかという話をしていたことがとても印象に残っています。皆さんは刃になるような言葉を人に向けていませんか。相手に届く言葉に思いやりをのせられていますか。私はこれからもSNSだけでなく、現実でのコミュニケーションも含めて、発言に気を付けます。

いつか言葉によって傷つく経験をする人がいなくなると願って。

